

令和6年度 第1回 学校運営協議会 記録

R6.5.21 (火) 13:30～15:30

※外部参加者（学校運営協議会委員）

菅沼泰夫氏（三方原地区根洗町自治会長）

山本浜雄氏（細江地区湖東自治会長）

安達 広氏（社会福祉法人聖隷事業団 医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院 執行役員・事務局長）

堀内 剛氏（浜松市社会福祉事業団 浜松市発達医療総合福祉センター
福祉センター所長）

加藤久貴氏（弁護士法人 リコネス法律事務所 弁護士）

山田浩昭氏（浜松学院大学 教授）

松本浩一氏（西部特別支援学校 PTA 会長）

※校内参加者 校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、 訪問主任、教務課長、総務課長

<学校運営協議会>

- 1 開会の言葉
- 2 校長挨拶
- 3 委員の任命
- 4 自己紹介
- 5 学校運営協議会概要説明 副校長より説明
- 6 会長・副会長・地域コーディネーターの選出
会長…山田委員 副会長…堀内委員 地域コーディネーター…山田委員
- 7 本校概要説明 副校長より説明
- 8 校内一巡
- 9 令和6年度学校経営計画 校長より説明
- 10 学部経営（小学部・中学部・高等部・訪問教育） 各部主事、訪問主任より説明
- 11 意見・助言

- ・ A委員：評価するのは学校側も大変であると感じる。
- ・ B委員：知・徳・体でうまく目標がまとまっている。小学部から高等部まで考え方が変遷している。
- ・ C委員：福祉の世界では、意思決定支援が導入されている。障害をもっている本人の意思を尊重している。教育の現場なので視点が違うが、卒業後に自分の意見を表現して自分に合ったサービスを選択できると良い。
- ・ D委員：年度末の学校評価が達成されるように、各学部の取組をしっかりとってほしい。
- ・ E委員：ICSを使ってほしい。情報を共有してほしい。
- ・ F委員：各学部で力を入れたいところが同じで、大切にしたいことが分かる。児童生徒が「できた」と感じられるようになると良い。近隣の大学や施設もうまく使っていくと良い。また、60周年に関連したものを地域に発信して

いくと良い。

- ・ B 委員：公民館サロンで活動している地元の人が学校にボランティアとして来たいと考えている。

⇒学 校：まず、本校を見ていただき、その後、是非ボランティアとして参加していただきたい。

- ・ A 委員：どういう人をボランティアとして募集しているのか。

⇒学 校：清掃のボランティアが来ていただけるとありがたい。PTA の奉仕活動にも協力していただきたい。

12 第2回に向けて

- ・ 防災のことについて検討していきたい。

13 閉会の言葉

<校内コンプライアンス委員会>

1 開会の言葉

2 学校の取組説明 副校長より説明

3 意見・助言

- ・ F 委員：ここ数年で、特別支援学校で多い不祥事は何か。

⇒学 校：全国的な過去例として、体罰の事案がある。今年度初めに体罰根絶に関する県作成のリーフレットを職員に渡して説明している。また、性に関する事案や交通事故もある。

⇒F 委員：職員の人数が多いなどの特別支援学校ならではの特徴もあると思う。そこをケアしていきたい。

- ・ C 委員：自分の職場では、カスハラなどから職員を守る研修もしている。職員をどう守っていくかも考えていく必要がある。

- ・ D 委員：直接のハラスメント相談窓口があると良い。相談窓口の間口を広げても良い。同性介助に関して、LGBTQ の視点からもいろいろな考えがある。

- ・ E 委員：メールでの相談も良いかもしれない。匿名でも相談できるようになると、相談しやすい。職員の多忙感を減らすために、ボランティアを活用できるとよい。

⇒学 校：組織としても対応して、職員の勤務時間を削減していきたい。

4 お礼

5 閉会の言葉